

『もりおかの短歌』

冬の部 優秀賞十首

しろ あさたかな ことうふ  
白い朝高鳴る鼓動踏みしめて

いと きみま  
愛し君待つ

あか まえ  
赤レンガ前

洋野町 芦口 このみ

がんじょう ちち はつにゆういん  
頑丈がとりえの父の初入院

さくらふぶき  
桜吹雪も

いろ ち  
色あせて散る

岐阜県加茂郡八百津町 細江 隆一

さよならといふより先に  
さよならといふより先に

こぼれたる

しろいきかな もりおか えき  
白息悲し盛岡の駅

宮城県仙台市 奈良 理英子

元日の朝あさ仰あおぎ見る岩手山いわてさん

その凜り凜しさに

姿勢しせいを正ただす

盛岡市 中島 久光

厨川系くりやがわいとの乱れみだの雪舞台ゆきぶたい

九郎もくろう駆かけたか

八幡平路はちまんたいじ

大阪府大阪市 石川 佳子

報恩寺ほうおんじの

五百羅漢ごひゃくらかんに紛まぎれ込こみ

知らぬ顔かほする節分せつぶんの鬼おに

青森県八戸市 木立 徹

岩洞湖がんどうこの

摂氏零度せつしれいどの水みずに棲すむ

銀白色ぎんはくしよくのわかさぎを釣つる

盛岡市 小林 貴史

古希過ぎて 父の慰問に

ひた走る 幸せと呼ぶ

冬の高速道

青森県三沢市 熊谷 正

若水を取りて

鉤屋の町歩るく

今年はじめの仕事なりけり

盛岡市 赤坂 昌信

おひやらんせ暖簾上げつつ

手招きす

駄菓子屋に入りて茶をいただく

盛岡市 堀米 公子

冬の部へジュニア部門へ 優秀賞一首

ズルズルと 食べ終わたったと  
思おもったら ジャンジャンと来くる  
わんこそばかな

北海道札幌市 玉井 晴規

〔講評〕岩手山を背景に雪が舞っている。白息（しらいき）がそれに溶け込んでいる。刹那の時間の中で小さな命のともしびれが互いが互いを確かめあっているかのように。厳しい冬の寒さが人の温もりを際立たせているのかもしれない。

平成二十九年三月選 冬の部

投稿数百十六首

選者 山本 玲子